

名称	加温貯蔵室・試験火薬仮置場
建築年代	昭和 9 年から昭和 12 年までの間
構造	鉄筋コンクリート造平屋建て（現在は基礎のみが残存する）
用途	建物名称から、「加温貯蔵室」において試験で使用する火薬を一時的に保管するための施設と推定される。
特徴	・ 建物の北側には 4 か所の扉が付き、扉の上部にも窓が付属する。 ・ 南側にも窓 2 か所が付く。 ・ 西側は加温貯蔵室と接続する上屋が付けられている写真が残存するが、戦後に野口研究所が増築したものと考えられる。 ・ 床面には鉄枠内にブロック形に成形した粘土状のものが敷き詰められており、部屋の用途に関連するものと推定されるが、詳細は不明である。 ・ 床面に隣接して鉄製パイプが存在することから、西側に隣接する加温貯蔵室と同様の構造であった可能性も推定されるが、現在のところ基礎部分の構造を比較することができていない。 ・ 基礎部分には赤煉瓦を砕き、碎石代わりに使用したと見られる。



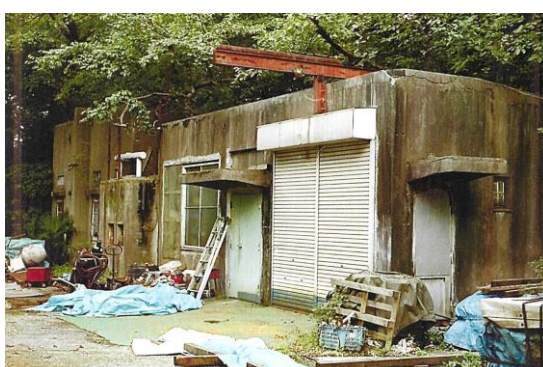
加温貯蔵室及び試験火薬仮置場



加温貯蔵室基礎部分の粘土状物質



加温貯蔵室及び試験火薬仮置場



奥側が加温貯蔵室及び試験火薬仮置場